

# つつじが丘北 自治会

第 216 号

管理組合・自治会ホームページ://tutuji.net メール:info@tutuji.2012年3月10日

## 震災から1年 各家庭で今なにをすべきか!?

●東日本大震災が発生して早くも1年がたちます。つつじが丘ハイツでも、いまだ経験にできなかった大きな揺れを体験しました。地震などの自然災害は、いつ起こるかわかりません。いざという時のために、日頃より地震に対する正確な知識や認識と対応が求められます。

●つつじが丘北自治会では、昨年6月の防災講演会「立川断層って危ないのか」(講師=山崎晴雄・首都大学教授)、今年2月の「防災リーダー講習会(講師=山村武彦・防災システム研究所所長)を通じ、災害に対する日ごろからの心構えをお伝えしてまいりました。●毎月第一日曜日に実施している資源回収のお礼に今年度は『災害/緊急用呼子笛』を家族数お届けさせていただきました。

●昨年の大震災で、地域のコミュニティの重要性と隣近所との絆の必要性を痛切に感じております。いま私たちが第一番目に取り組みなくてはならないのは、「自助」の確立と山村武彦氏の提唱されている「近助の精神」ではないでしょうか。●3.11大震災の教訓を活かし、各家庭での“家具転倒”などによる怪我、備蓄食糧の欠乏による不安とストレス。これらは、少しの事前対策で被害を軽減できます。

●「これだけは備えておきたい非常時持出品リスト」を裏面に掲載します。この機会に各ご家庭で今一度点検、補充をおこないましょう。



### ▼ファミリー防災会議を開催しましょう!

- 3.11大震災の報道を他人事とせず、地震の時に家族が慌てず行動できるよう、この機会に話し合い情報を共有しておきましょう。
  - 地震はいつ起こるかわからないことから、時間帯や誰が在宅しているかなど様々なケースを想定し話し合っておきましょう。
  - 話し合いでは、想定したケース毎に分担を決めるほか、高齢者や乳幼児など家族構成も考慮し次のようなことも相談しよう。
- ①家の中でどこが一番安全か
  - ②避難場所、避難路はどこか
  - ③非常持出袋はどこに置いてあるか

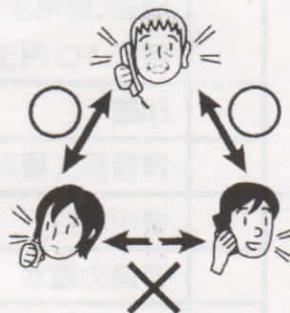
※2月にお配りしたペンダントタイプの“緊急用呼子笛”のIDカードを記入し、普段から携帯しましょう。

### ▼家族との連絡方法の確認

家族が離ればなれで

被災した時の、お互いの安否の確認手段を考えておきましょう。

- 家族が離ればなれで被災した場合、自分の身の安全が確保できたら、次は家族の安否を確認しましょう。
- 被災地では、連絡手段が限られていますので、公衆電話等から利用できるNTTの「災害伝言ダイヤル171」や携帯電話の「災害用伝言板」などのサービスがあるので活用方法を知っておきましょう。



～裏面もあります～